

## 基礎看護実習 I における教育効果の検討:実習前後の学習意欲の変化から

加藤法子\*, 瀧野由夏\*, 永嶋由理子\*, 津田智子\*, 山名栄子\*, 中野榮子\*

### Towards a Greater Desire to Learn: A Study of the Effect of *Fundamental Nursing Practice I* upon Student Motivation.

Noriko KATO, Yuka FUCHINO, Yuriko NAGASHIMA, Tomoko TSUDA, Eiko YAMANA and Eiko NAKANO

#### Abstract:

We aimed to clarify the structure of academic motivation for beginning nursing students and the motivational changes resulting from taking *Fundamental Nursing Practice I*. We also aimed to investigate educational results as they relate to the academic motivation of *Fundamental Nursing Practice I*. Academic motivation comprised the elements of expectations regarding practice and training, suitably small study groups, and self-study behaviour, and students were able to enhance the first two elements through *Fundamental Nursing Practice I*. In the future, we can anticipate raising students' academic motivation further by investigating educational methods in order to enhance self-study behaviour.

**Key words:** nursing education, academic motivation, nursing students, Fundamental Nursing Practice I.

#### 要 旨

看護学の初学者である学生の学習意欲の構造を明らかにすると共に、基礎看護実習 I によってその意欲がどのように変化したかを明らかにし、基礎看護実習 I の学習意欲に対する教育効果を検討することを目的とした。学習意欲は「実習・演習に対する期待」「小集団学習への適正」「主体的学習行動」で構成されており、基礎看護実習 I を通して学生は「実習・演習に対する期待」「小集団学習への適正」の因子を向上させることができていた。今後は、「主体的学習行動」を向上させるための教育方法を検討することで、より学生の学習意欲が高まることが期待できると考える。

キーワード:看護教育, 学習意欲, 看護学生, 基礎看護実習 I

#### 緒 言

わが国において看護をめぐる環境は、少子高齢化や医療技術の進歩により大きく変化してきており、より患者の視点に立った質の高い看護を提供することが求められている。平成18年に行われた「看護基礎教育の充実に関する検討会」では、看護をめぐる現状と課題、保健師・助産師・看護師教育の現状と課題、充実すべき教育内容ならびに専任教員の資質の

向上、臨床実習の方法などについて検討された。その中で、看護基礎教育はあくまでも基礎的能力を養うものであり、様々な環境の変化の中で常に社会から必要とされる看護師であるためには、卒業後も自ら主体的に、時代に応じた知識や技術を学び続けるべきである旨を新たに盛り込んでいる(看護基礎教育に関する検討会, 2007)。学習に主体的に取り組むために、基礎教育の時期から主体的な学習の取り

\*福岡県立大学看護学部基礎看護学講座  
Department of Fundamental Nursing, Faculty of Nursing,  
Fukuoka Prefectural University  
連絡先: 〒825-8585 福岡県田川市大字伊田4395番地  
福岡県立大学看護学部基礎看護学講座 加藤法子  
E-mail: kato@fukuoka-pu.ac.jp

組みを意識づけさせ、習慣として定着させることが看護専門職として成長するために重要な要素だと考えられる。看護教育の中で多くの時間を費やされる臨床実習は、学内の講義や演習で学ぶことのできないことを得る機会にあふれており、看護への意識づけや興味関心を高めることのできる絶好の機会でもある。

本学では、入学して間もない5月に、学生にとって最初の実習である基礎看護実習Ⅰが実施されている。この実習では、老人保健施設と医療施設での見学実習を通して、「看護職を含む医療従事者や看護の対象者となる人を知ることで、看護を学ぶものとしての自覚と主体的な動機づけとなる」ことを目標に、実習教育を行っている。早期の見学実習の効果としては、主体的に学習に取り組もうという意欲に結びつけているとの報告も多い。(石綿, 2005; 桜井, 山口, 1999; 塩川, 中島, 青井, 土谷, 杉本, 松永, 田村, 2002; 水田, 辻, 上坂, 中納, 井上, 2004) また、本学の学生を対象に行った調査では、レポートの分析から、基礎看護実習Ⅰを通して看護を学ぶ意欲が向上したとの結果が得られた。(加藤, 佐藤, 高橋, 永嶋, 中野, 2003) また、高橋・中野(2003)は、実習での楽しさや看護の魅力を感じることで学習意欲を引き出していることを報告している。しかし、ここで言う学習意欲とは、看護を学びたいという意識の強さのことで、その学習意欲の構造は明らかにされていない。

そこで、今回、看護学の初学者である学生の学習意欲の構造を明らかにすると共に基礎看護実習Ⅰによってその意欲がどのように変化したかを明らかにし、基礎看護実習Ⅰの学習意欲に対する教育効果を検討することを目的とした。

## 方 法

### 1. 調査対象者

福岡県立大学看護学部1年生81名を対象とした。

### 2. 調査期間

平成19年5月28日～平成19年6月1日

### 3. 調査方法

調査は実習前と実習後の2回行った。調査票は、記名式の自記式調査票である。実習前の調査は、実習初日のオリエンテーション後に調査表・同意書・研究の目的や趣旨、倫理的配慮の記載された文書を配布し、研究の目的や方法について口頭で説明した。

研究に同意した学生には、調査票に回答してもらい、学内の教室に設置した回収箱にて回収した。実習後の調査は、実習終了後、調査票を配布し、回答してもらい、学内の教室に設置した回収箱にて回収した。

### 4. 調査票の構成

今回の解析に使用した項目は、基本属性(年齢、性別)と、永嶋(2001)が作成した看護学生の学習意欲尺度である。この学習意欲尺度は、看護教育に特有の実践思考性の高い演習・実習、小集団での課題遂行、看護への興味・関心を含めた看護学生の学習意欲を測定するものである。30項目で構成されており、非常に当てはまる4点、少し当てはまる3点、あまり当てはまらない2点、まったく当てはまらない1点の4段階回答法で、合計点が高いほど学習意欲が高いといえる。

### 5. 分析方法

分析は学習意欲の変化をみるために、学習意欲尺度の項目毎の平均点と30項目の合計点の平均点を算出し、実習前と実習後の比較をウィルコクソンの符号付順位と検定により比較した。次に、学習意欲の内部構造を明らかにするために、因子分析(主因子法、バリマックス回転)を行った。その結果に基づき、因子別得点を算出し、実習前と実習後の変化についてウィルコクソンの符号付順位と検定により比較した。解析には統計ソフトSPSS ver.15.0 J for Windowsを使用した。

### 6. 倫理的配慮

調査の際には、研究の目的と主旨、調査方法、調査期間、個人情報保護に関すること、研究は強制ではないこと、研究に協力しなくてもなんら不利益を被らないこと、研究協力すると決めても対象者の自由意志でいつでも研究協力をやめることができること、調査票は記名式であるが公表の際には個人が特定できないように配慮すること等を記した文書と同意書を、調査票と同時に配布し、口頭で説明を行った。研究内容に同意し、かつ同意書を提出した学生のみを調査対象とした。なお、研究によって得られた内容は匿名性を保ち、結果から個人が特定できないように配慮した。

### 7. 基礎看護実習Ⅰの概要

基礎看護実習Ⅰの概要については表1の通り。

### 8. 用語の定義

**学習意欲:** 本研究での学習意欲とは、看護教育

表 1

## 基礎看護実習 I の概要

**1. 実習目的**

介護老人保健施設や医療施設を利用する人々に対し，医療福祉チームはどのように連携をしながら対象者のニーズに対応しているかを知る．その中で看護はどのような役割を果たしているかを知り，看護を学ぶ者としての自覚と主体的な学習の動機づけとする．

**2. 実習目標**

## 1) 介護老人保健施設

- (1) 介護老人保健施設に入所あるいは通所している高齢者は，どのような援助を受けながら生活しているかを知る．
- (2) 利用者の生活を安全・安楽に支えるために，介護老人保健施設はどのように施設・整備を整え，運営しているかを知る．
- (3) 利用者の生活支援をしている看護や介護の職員の活動および連携のあり方を知る．

## 2) 医療施設

- (1) 医療施設は受診者のニーズに応えるためにどのようなシステムで医療を提供しているかを知る．
- (2) 医療チームの連携の実態と其中で看護はどのような役割を担っているかを知る．
- (3) 入院している患者の病棟・病室での生活の様子を把握し，どのような看護を受けているかを知る．

**3. 実習方法**

1) 実習時期：1年次前期

2) 実習期間：1週間（5日間）

3) 実習計画：

第 1 日目	午前	全体オリエンテーション 学外実習（第2日目）施設別オリエンテーション
	午後	事前学習（学内実習）
第 2 日目	午前	学外実習
	午後	自己学習（学内実習）
第 3 日目	午前	学外実習（第2日目）のまとめ 学外実習（第4日目）施設別オリエンテーション
	午後	事前学習（学内実習）
第 4 日目	午前	学外実習自
	午後	自己学習（学内実習）
第 5 日目	午前	学外実習（第4日目）のまとめ 全体発表会の準備
	午後	全体発表会

に特有の実践思考性の高い演習・実習，小集団での課題遂行，看護への興味関心を含めた学習に対して自発的に学習活動を展開し遂行しようとする意欲のことである．

**結 果****1. 解析対象者**

調査票は81名に配布し，実習前の調査票に回答したものは72名であった．また，実習後の調査票に回答したものは70名であった．このことから，実習

前・実習後ともに回答が得られた70名(有効回答率86.4%)を解析対象者とした。

70名中、男性7名、女性63名で、90%が女性であった。年齢は、18歳57名、19歳10名、で全体の95.7%を占めていた。

## 2. 学習意欲の概要

実習前の学生の学習意欲を検討するために項目ごとに平均値を算出した(表2)。

上位5項目をみると、看護を学ぶことは将来自分の夢を実現するために意味のあることだと思う( $3.76 \pm 0.46$ )、グループ学習ではメンバーの意見を聞けるので個人で学習するより学びが深い( $3.60 \pm 0.55$ )、グループで学習することは看護を学ぶうえで重要なことと思う( $3.51 \pm 0.61$ )、課題レポートを書くときは資料を収集してから取り組む( $3.49 \pm 0.56$ )、実習ではいろいろな看護職から看護を学ぶことができるので充実感がある( $3.44 \pm 0.56$ )であった。一方、下位5項目を低位の順から見てみると、看護や保健医療福祉に関する記事を切り抜き整理している( $1.61 \pm 0.71$ )、レポート作成のために図書館以外の他の施設に行くことがある( $1.74 \pm 0.79$ )、書店等へ行って看護に関する本を買うことがある( $1.80 \pm 0.84$ )、将来の目標のために今から学習していることがある( $2.00 \pm 0.68$ )、看護職の国家試験に合格できることが一番重要である( $2.00 \pm 0.72$ )となっていた。

## 3. 学習意欲の項目別実習前・実習後の変化

実習前後の学習意欲の変化を見るために、30項目の合計点の平均値を算出し、比較した。その結果、実習前が $84.6 \pm 7.201$ が、実習後は $87.46 \pm 7.853$ に向上しており、有意水準0.1%で有意差が認められた。(表2)

次に、実習前と実習後の意識の変化を見るために、各項目の得点の平均値を算出し、比較した。その結果、有意水準0.1%で有意差が認められた項目は、「将来のために今から学習していることがある」1項目であった。有意水準1%で有意差が認められた項目は、「実習は様々な患者に出会えるので楽しい(楽しいと思う)」、「書店等へ行って看護に関する本を買うことがある」の2項目であった。また、有意水準5%で有意差が認められた項目は「実習では色々な看護職から看護を学ぶことができるので充実感がある」、「病院の実習や学校内の技術実習を今から楽しみにしている」、「実習では学内で学習したことを実

際にケアできるので楽しみ」、「教員から紹介された文献や本には必ず目を通す」、「レポート作成のために図書館以外の他の施設に行くことがある」の5項目であった。

## 4. 学習意欲の構成因子(因子分析より)

学生の学習意欲の内部構造をみるために、因子分析を行った。因子の抽出は主因子法とし、因子軸の回転法は直行バリマックス回転を用いた。30項目のうち、因子的共通性を欠く13項目(因子負荷量0.35未満)を除外した。因子分析を行った結果、3因子が抽出された。(表3)第I因子は、「実習では学内で学習したことを実際にケアできるので楽しみである」、「学校内の技術実習や病院の実習をするのは今から苦痛である」、「病院の実習や学校内の技術実習を今から楽しみにしている(楽しかった)」など9項目からなり、実習・演習に対する期待に関する項目の因子負荷量が高いことから「実習・演習への期待」と命名した。第II因子は、「グループで学習することは看護を学ぶ上で重要なことと思う」、「グループ学習ではメンバーの意見を聞けるので個人で学習するより学びが深い」「グループ学習ではメンバーと意見交換ができるので楽しい」など6項目からなり、グループ学習の意義に関する項目の因子負荷量が高かったことから、「小集団学習への適応」と命名した。第III因子は、「将来の目標達成のために今から学習していることがある」「将来の目標達成のために日頃から情報収集を行っている」「レポート作成のために図書館以外の他の施設に行くことがある」など、自主的な学習を行っていくための具体的な行動に関する項目の負荷量が高いことから「主体的学習行動」と命名した。クロンバック $\alpha$ 係数を算出したところ、第I因子は $\alpha = .671$ 第II因子は $\alpha = .715$ 、第III因子は $\alpha = .683$ であった。

## 5. 学習意欲の因子ごとの得点変化

因子分析で抽出された各因子について、因子別得点を算出し、実習前と実習後の因子別得点の平均値を比較した。(表4)第I因子の因子得点の平均は実習前が $24.01(\pm 2.86)$ が、実習後は $24.83(\pm 2.98)$ に向上しており、有意水準0.1%で有意差が認められた。第II因子の因子得点の平均は、実習前が $13.44(\pm 1.70)$ が、実習後は $13.69(\pm 1.782)$ に向上しており、有意水準0.1%で有意差が認められた。第III因子の因子得点の平均は、実習前が $13.44(\pm 1.71)$ が、実習後は $13.69(\pm 1.78)$ に向上したものの、有意差は認めら

れなかった。

### 考 察

今回、看護の初学者である学生の学習意欲の構造を明らかにすると共に基礎看護実習 I によってその意欲がどのように変化したかを明らかにし、基礎看護実習 I の学習意欲に対する教育効果を検討した。

学習意欲全体を実習前・実習後で検討した結果、実習後は実習前に比べると学習意欲が有意に高まっていた。筆者らが行った先行研究では、質的分析から、基礎看護実習 I は学習意欲の向上につながっていた。(加藤ほか、2003) 今回の統計的分析の結果、質的分析と同様に学習意欲の向上が確認できたことから、学習意欲の分析結果の妥当性は高いと考えられ、基礎看護実習 I は学生の学習意欲を高めることが確認された。

学習意欲の項目ごとに実習前の学生の傾向をみると、看護を学ぶことへの期待、実習・演習に対する期待、グループ学習に関する期待などが上位項目を占めていた。このことから、この時期の学生の傾向として、看護を学ぶことに対する期待や、直面する実習に対しての期待を強くもっており、看護を学びたいという向上心があることが示唆された。またグループや実習等による他者との関わりを通して、また与えられた課題などによって学習しようという傾向から、外発的要因が学習意欲を高めているということが伺えた。一方、下位項目を見てみると、看護を学ぶ上での学習行動に関する項目が多く、自主的に看護を学ぼうとするための具体的な行動化にはいたっていないと考えられた。

次に、学習意欲の項目毎に実習前と実習後の変化を検討した結果、実習前と実習後で差が見られたのが8項目で、これらの項目の得点はすべてプラスに増加していた。実習での効果が得られた項目の特徴としては、実習や演習に関する期待や自主的に学習しようという行動に関する項目であった。自主的に学習しようとする行動の項目を細かく見てみると、「レポート作成のために図書館以外の他の施設を利用することがある」「教員から紹介された文献や本は必ず目を通す」「書店等へ行って看護に関する本を買うことがある」など実習で与えられた課題を遂行するための手段であることも考えられる。これらの項目は、実習前・実習後の変化はあったものの、全項目と比較すると、得点が低かった。このことから、

学生は、与えられた課題を遂行するための学習行動には結びついたが、さらに、学びを深めるための行動化には至っていないのではないかと考える。

次に、学生の看護における学習意欲の内部構造を明らかにするために因子分析を行った結果、3因子が抽出され、「実習・演習への期待」、「小集団学習への適応」「主体的学習行動」から構成されていることがわかった。因子別得点を算出し、実習前・実習後の平均値を比較すると、「実習・演習への期待」、「小集団学習での適応」では有意差が確認され、双方、基礎看護実習 I によって点数が上がっていた。

学生は、看護の学習者という視点から実際の看護場面をみた経験がないと、講義を受けても講義の内容が難しかったり、イメージを膨らませることが難しかったりと学習するうえで困難な場面が多い。実習を通して、実際の看護場面や看護の対象となる人を知ることで、実習や演習のイメージを具体化させたことが、「実習や演習への期待」の因子を向上させる結果につながったと思われる。

基礎看護実習 I では、1 グループを5～6名で編成し、グループ学習の場を多く設定している。また経験型実習の一貫で、実習での学びを振り返る場として、施設見学実習後、全体発表の準備時、全体発表時などグループで意見交換する場を多く設けている。学生は、その場で、お互いに実習での体験や学び、気付きを積極的に話し合い、共有することで学びを深めていた。このような学生同士で成長し合えるような体制をとったことが、グループ学習の効果を実感し、看護を志すもの同士で成長し合おうという「小集団学習への適応」の因子を向上させる結果につながったと思われる。

「主体的学習行動」においては、実習前・実習後の変化が確認されなかった。項目ごとの比較、先行研究とあわせて考えると、基礎看護実習 I は、これからの学習過程で遭遇する実習や演習などに関してはイメージを膨らませ、「知識・技術を身につけたい」、「専門的知識を増やしたい」など抽象的な課題を見出し、看護を学ぶ意欲につなげていた。しかし、それを具体的な方法として専門的知識や技術に関連させるための解決策を見出せず、看護を学ぶことに対する興味を深化させることにとどまったのではないかと考える。これらは、今後の学内での演習や講義、実習を通して、看護の専門知識を深めていく中で解決できるのではないかとと思われる。

表2  
実習前・実習後の学習意欲項目別得点変化

	実習前		実習後		有意差
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
20) 看護を学ぶことは将来自分の夢を実現するために意味のあることだと思う	3.76	0.464	3.69	0.553	0.071 n.s.
26) グループ学習ではメンバーの意見を聞けるので個人で学習するより学びが深い	3.60	0.549	3.66	0.535	-0.057 n.s.
25) グループで学習することは看護を学ぶうえで重要なことと思う	3.51	0.608	3.43	0.604	0.086 n.s.
3) 課題のレポートを書くときは、資料を収集してから取り組む	3.49	0.559	3.63	0.594	-0.136 n.s.
18) 実習では色々な看護職から看護を学ぶことができるので充実感がある	3.44	0.555	3.70	0.521	-0.257 *
19) 看護を選択したことを後悔している (*)	3.43	0.696	3.52	0.633	-0.087 n.s.
15) 学校内の技術実習や病院の実習をするのは今から苦痛である (*)	3.36	0.615	3.26	0.557	0.100 n.s.
13) 病院の実習や学校内の技術実習を今から楽しみにしている	3.30	0.688	3.46	0.652	-0.157 *
16) 実習は様々な患者に出会えるので楽しい(楽しいと思う)	3.29	0.663	3.50	0.558	-0.214 **
30) グループ学習ではメンバーと意見交換ができるので楽しい	3.20	0.628	3.33	0.696	-0.129 n.s.
28) グループの中で意見が合わなくていやになっていって頑張ろうと努力するほうだ	3.13	0.536	3.07	0.621	0.057 n.s.
21) 入学してから看護への憧れが強くなった	3.13	0.700	3.17	0.701	-0.043 n.s.
11) 看護に関する講演会や学会等には関心がない (*)	3.11	0.578	3.03	0.613	0.086 n.s.
17) 実習では学内で学習したことを実際にケアできるので楽しい	3.10	0.745	3.27	0.721	-0.171 *
23) 将来に対する明確な目標を持って看護を学んでいる	3.10	0.663	3.16	0.694	-0.057 n.s.
14) 看護の技術はテクニックを習得するだけでなく、科学的根拠も学ぶので苦痛だ (*)	2.96	0.624	2.89	0.649	0.071 n.s.
29) グループ学習の中でメンバーから批判されると学習する気がなくなる (*)	2.80	0.694	2.84	0.828	-0.043 n.s.
22) 看護職は自分には向いていないと思う (*)	2.77	0.645	2.87	0.741	-0.103 n.s.
12) 看護の勉強は難しすぎて理解できない (*)	2.61	0.666	2.64	0.685	-0.023 n.s.
8) 疑問があったら教師に質問するほうだ	2.53	0.880	2.60	0.788	-0.071 n.s.
9) 学校に掲示してある看護に関する勉強会や、講演会の参加申し込みに通す	2.51	0.737	2.51	0.794	0.000 n.s.
27) グループ学習では自分から積極的に発言するほうだ	2.37	0.745	2.51	0.737	-0.143 n.s.
1) 学校の課題がなくとも、図書館を利用する	2.37	0.726	2.46	0.755	-0.086 n.s.
2) 将来の目標を達成するために日頃から情報収集を行っている	2.33	0.653	2.46	0.530	-0.129 n.s.
10) 教員から紹介された文献や本には必ず目を通す	2.10	0.710	2.29	0.725	-0.184 *
24) 看護職の国家試験に合格できることが一番重要である (*)	2.00	0.722	2.14	0.804	-0.143 n.s.
6) 将来の目標達成のために今から学習していることがある	2.00	0.681	2.31	0.692	-0.314 ***
5) 書店等へ行って看護に関する本を買うことがある	1.80	0.844	2.03	0.761	-0.229 **
7) レポート作成のために図書館以外の他の施設に行くことがある	1.74	0.793	2.03	0.840	-0.286 *
4) 看護や保健医療福祉に関する記事を切り抜き整理している	1.61	0.708	1.70	0.667	-0.086 n.s.
全項目合計点	84.60	7.201	87.46	7.853	-2.860 ***

(\*)は逆転項目で、点数は変換して平均値を出している  
 n.s. 有意差なし \* p<0.05 \*\* p<0.01 \*\*\* p<0.001

表 3  
学習意欲の因子分析表

項 目	I 実習・演習に対する期待		II 小集団学習への適正		III 主体的学習行動	
17) 実習では学内で学習したことを実際にケアのできるので楽しい(楽しかった)	0.733		0.126		-0.072	
15) 学校内の技術実習や病院の実習をするのは今から苦痛である(苦痛だった)	0.655		0.015		-0.108	
13) 病院の実習や学校内の技術実習を今から楽しみにしている(楽しかった)	0.642		0.319		-0.144	
16) 実習は様々な患者に出会えるので楽しい(楽しいと思う)	0.610		0.376		0.008	
21) 入学してから看護への憧れが強くなった	0.516		0.101		0.166	
22) 看護職は自分には向いていないと思う	0.490		-0.027		0.136	
24) 看護職の国家試験に合格できることが一番重要である	-0.414		-0.050		0.023	
18) 実習では色々な看護職から看護を学ぶことができるので充実感がある(充実感があった)	0.398		0.360		-0.041	
23) 将来に対する明確な目標を持って看護を学んでいる	0.395		0.101		0.114	
25) グループで学習することは看護を学ぶうえで重要なことと思う	0.110		0.766		0.003	
26) グループ学習ではメンバーの意見を聞けるので個人で学習するより学びが深い	-0.057		0.740		-0.231	
30) グループ学習ではメンバーと意見交換ができるので楽しい	0.133		0.490		0.250	
28) グループの中で意見が合わなくていやになっても、もうちょっと頑張ろうと努力するほうだ	0.172		0.452		0.234	
19) 看護を選択したことを後悔している	0.345		0.399		-0.028	
20) 看護を学ぶことは将来自分の夢を実現するために意味のあることだと思う	0.337		0.397		-0.201	
6) 将来の目標達成のために今から学習していることがある	-0.217		-0.019		0.600	
2) 将来の目標を達成するために日頃から情報収集を行っている	0.052		0.061		0.584	
7) レポート作成のために図書館以外の他の施設に行くことがある	0.112		-0.048		0.549	
5) 書店等へ行って看護に関する本を買うことがある	0.005		0.022		0.528	
10) 教員から紹介された文献や本には必ず目を通す	0.063		-0.108		0.393	
1) 学校の課題がなくとも、図書館を利用する	-0.134		0.021		0.384	
27) グループ学習では自分から積極的に発言するほうだ	0.336		0.162		0.376	
8) 疑問があったら教師に質問するほうだ	0.333		0.136		0.373	
固有値	4.89		2.86		1.99	
寄与率	21.22		12.41		8.64	
累積寄与率	21.22		33.63		42.26	

表 4  
実習前・実習後の因子別得点変化

	実 習 前		実 習 後	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
第 I 因子 実習・演習への期待	24.01	2.862	21.96	2.651
第 II 因子 小集団学習への適正	12.36	2.728	13.49	2.447
第 III 因子 主体的学習行動	13.44	1.708	13.69	1.782
			n.s.	***
			有意差なし	p<0.001

心理学の分野では、学習意欲は動機づけとも呼ばれ、動機づけにも、内発的動機づけと外発的動機づけを分けている。鹿毛(1995)によれば、内発的動機づけは自分から進んで認識を深めたり技能を高めたりするような意欲の状態であり、学ぶプロセス自体に楽しさや喜びがあることで高まる。一方、外発的動機づけは本人の意思と関係なく必然的に学ばなければならないことで、手段としての学習があり、目標が達成されると学習が終了することが多いと述べている。このことから考えると、主体的に学習しようという行動をおこすには、内発的動機づけが重要であると考えられる。項目別の比較では、実習後の学生は、与えられた課題を遂行するための学習行動は高まっていた。これらは実習後の課題を出さなければならないという必然的なもの、つまり外発的動機づけであり、学生が内発的動機づけを高める場面が少なかったのではないかと考えられる。基礎看護実習 I は見学実習であるため、患者を受け持ったり、直接的なケアを行ったり、自らの知識を駆使して実習で生かす場がないことから、看護を学ぶ過程での楽しさや喜びを感じにくいのではないだろうか。これらは、今後の実習や演習での経験や学習を通して深めていけるよう、教育方法や学習環境を整える必要があると考える。

実習後の学習意欲が向上していたこと、また学習意欲の下位因子である「実習・演習への期待」「小集団学習への適正」が向上していたことから、基礎看護実習 I は学生にとって学習意欲を高める効果があったといえる。永嶋(2001)は、入学前の動機(看護職志望動機・学校選択動機)が入学後の学習意欲に決定的な影響を及ぼしていないと報告している。言い換えると、入学後の教育環境や教育の提供内容によって学習意欲が高まる。基礎看護実習 I は、見学実習だけでなく、グループ学習での実習の振り返り、全体発表などを行うことで、学びを深め、それは、学習意欲を高めることにもつながっていた。このことから、看護を学ぶ上での導入として、基礎看護実習 I の教育目標・教育方法は妥当であると思われる。

### 結 論

看護学の初学者である学生の学習意欲の構造を明らかにすると共に基礎看護実習 I によってその意欲がどのように変化したかを明らかにし、基礎看護実

習 I の学習意欲に対する教育効果を検討することを目的とした。学習意欲は「実習・演習に対する期待」「小集団学習への適正」「主体的学習行動」で構成されており、基礎看護実習 I を通して学生は「実習・演習に対する期待」「小集団学習への適正」の因子を向上させることができていた。今後は、「主体的学習行動」を向上させるための教育方法を検討することで、より学生の学習意欲が高まることが期待できると考える。

受付 2007. 9. 30  
採用 2007. 11. 30

## 謝 辞

本研究に協力していただきました学生の皆様に深く感謝いたします。

## 文 献

- 石綿啓子 (2005). 基礎看護実習における学生の学び: 実習効果に焦点を当てて. *高崎保健福祉大学紀要*, 4, 125-139.
- 加藤法子, 佐藤友美, 高橋清美, 永嶋由理子, 中野榮子 (2003). 基礎看護実習 I における実習内容の検討: 実習レポートの分析から. *福岡県立大学看護学部紀要*. 1(1), 71-78.
- 鹿毛雅治 (1995). 意欲: やる気と生きがい. 東洋 (編), *現代のエスプリ*, 105-113. 東京: 至文堂.
- 看護基礎教育の充実に関する検討会 (2007). *看護基礎教育の充実に関する検討会報告書*.
- 桜井礼子, 山口真由美 (1999). 看護教育における初期体験実習の経験と意義. *大分看護科学研究*. 1(1), 20-26.
- 塩川華子, 中島五十鈴, 青井聡美, 土谷美恵, 杉本吉恵, 松永保子, 田村典子 (2002). 臨地実習の学びをより促進させる教員の関わり方: 基礎看護実習 I 終了後のアンケート調査から. *広島県立保健福祉大学誌: 人間と科学*, 2(1), 53-63.
- 高橋清美, 中野榮子 (2003). 学生が抱く早期看護実習 I の主観的満足感: 内発的動機づけによる実習効果. *福岡県立大学看護学部紀要*. 1(1), 29-39.
- 永嶋由理子 (2001). 看護学生の学習意欲の検討. *山口県立大学看護学部紀要*, 5, 39-45.
- 水田真由美, 辻幸代, 上坂良子, 中納美智保, 井上潤 (2004). 基礎看護実習の早期体験における教育評価: 学生評価からの検討. *和歌山県立医科大学看護短期大学部紀要*7, 69-74.